

第1回北薩地域振興の取組方針策定有識者委員会 議事概要

1 日時

平成30年7月2日（月）14時～16時

2 場所

北薩地域振興局本庁舎 第5会議室(会議室棟3階)

3 出席者

(1) 有識者委員（15名）

山本委員，竹原委員，北村委員，来仙委員，今別府委員，跡上委員，
永田委員，大野委員，松木委員，増田委員，南原委員，京田委員，岩下委員，
山下委員，奈良迫委員

(2) 県(北薩地域振興局)（13名）

局長，総務企画部長，保健福祉環境部長，農林水産部長，総務企画部（総務
企画課長，総務企画課課長補佐，総務企画課調整主幹，総務企画課地域振興
係長），保健福祉環境部（健康企画課課長補佐），農林水産部（林務水産課長），
建設部（土木建築課長，河川港湾課技術主幹兼漁港係長），北薩教育事務所
総務課長

※ 南日本新聞薩摩川内総局記者1名傍聴

4 北薩地域振興局大竹局長あいさつ

- ・ 県では本年3月，概ね10年後を見据えた中長期的な観点から，鹿児島
の目指す姿や施策展開の基本方向などを明らかにする「かごしま未来創造
ビジョン」を策定
- ・ ビジョンの特徴は，鹿児島が国内外に誇れる多くの魅力や強み（ポテン
シャル）を改めて認識し，最大限に活用するという項目を含んでいること。
- ・ ビジョンを受け，北薩地域においても，地域の課題やポテンシャル，分
野別の取組方針などを示す「北薩地域振興の取組方針」を策定する。
- ・ 取組方針の策定にあたり，地域の有識者から助言を得るため，委員会を
開催するもの。幅広い観点から助言いただきたい。

5 議事（大竹局長は座長席へ移動）

(1) 北薩地域振興の取組方針策定説明（岩元総務企画課長）

資料に基づき、北薩地域の概況・特性、「かごしま未来創造ビジョン」の概要、「北薩地域振興の取組方針」策定スケジュールなどについて説明

(2) 質疑

【今別府委員】

鹿児島県が北薩地域をどのように位置づけ、どのような未来図を示して具体的な計画を作ろうとされているのかが今一つ見えてこない。

ビジョンには、かごしま連携中枢都市圏や薩摩川内市定住自立圏が示されており、市町村合併を経て、鹿児島市、霧島市、鹿屋市、薩摩川内市、ここは現在10万人を割り込んでいるが、この4市が10万都市となっている。

県政の動きを見ていると、始良・霧島地域、この地域はかつての「テクノポリス構想」に基づき、技術センター、大学の研究施設、県の出先機関、さらには、鹿児島空港もあるので、関係する施設が集約している。鹿児島地域に次ぐ振興が図られている地域である。

北薩地域の場合、こういった構想が示されておらず、施設等も集約していないように思う。国が示す地方拠点都市に指定され、国の補助等により都市づくりが進められてきたが、始良・霧島地域に比べると発展していない。さらに、かごしま連携中枢都市圏構想で、鹿児島市・日置・いちき串木野地域、始良・霧島地域の連携が進む。薩摩川内市定住自立圏構想は示されているが、北薩地域の位置づけを我々にわかりやすい形で示していただければ、北薩地域の取組方針策定に当たって意見も出しやすくなる。

【岩元総務企画課長】

北薩地域は、新幹線停車駅が2駅あるということ、西回り自動車道の整備が進められている、製造業のウェイトが高いという特徴があるが、北薩地域の位置づけ、方向性が見えにくいというのは、委員ご指摘のとおり。

今回の取組方針については、ご指摘のような背景も踏まえ、委員の皆様からご意見をいただき、北薩地域の位置づけ・方向性が見えるような形で作成できればと考えている。

【大竹局長】

私たちの地域振興局，県内に7つの地域振興局・支庁があるが，道州制を睨んで設置されたのではないかと個人的に考えている。

道州制の議論は下火になり，また，ICT化が進んで地域の状況や技術もめまぐるしく進歩していく中，個別の計画を策定し施策を進めていくというのは難しい時代ではないかと思う。

今回の「かごしま未来創造ビジョン」で県全体の方向性は示されているので，「北薩地域振興の取組方針」では，北薩地域の進むべき方向性を示していくということになる。

県が地域をどのようにするかということではなく，地域がおかれた状況を踏まえ地域がどの方向に進んでいくべきなのかということについて，御議論いただければありがたい。

【今別府委員】

各市町では総合計画を策定し，取組を進めている。薩摩川内市では，エネルギーの街，環境の街という方向性で取組を進めているし，長島町では漁業の街で進めている。できれば，市町のシンボリックなものを掲げて，それらの横の連携をどう進めていくのかについて，次回で結構ですので示していただきたい。委員の方々は市町の枠組みには関係ない方々なので，議論も進みやすくなると思う。

【岩元総務企画課長】

市町の総合計画については，次回の委員会で提示したい。

【奈良迫委員】

平成22年に地域別の将来ビジョンが作られた。この8年前に作られたビジョンについて，どのような結果になったかとか，全然違う方向に進んだとか，検証してもらえればありがたい。

また，人口減少，ICTの急速な発展が進む中，地域のあり方が非常に難しくなっていると感じる。都会の真似をしても仕方がないので，北薩地域が都会と共にもどう生きるか。共生の考え方が大切。北薩には新幹線駅が2つある。おれんじ鉄道もある。西回り自動車道も伸びる。距離感覚は短くなる，便利にはなるけれどもそれが，過疎化が進展する要因にもなり得る。北薩地域の生き残り策，都会とは違う地域がどう生き残るのかという方針を，3市2町の考え方も踏まえながら作る方がわかりやすいかもしれない。

ビジョンを作るのは大変難しいと思う。これだけICTが普及すると、様々な業界で仕組みが変わっていく。このような中で、どのように生きていくのかを示していただければと思う。

【岩元総務企画課長】

前回ビジョンの検証結果については、次回の委員会で示したい。
共生の観点については、取組方針案を作る際の参考にさせていただく。

6 意見交換（フリーディスカッション）

座長が出席委員に対し、一人3分程度の発言を促す。

【山本委員】

今回の県のビジョンで特に期待しているのは、若者の定着ということ。北薩地域の取組方針にもぜひ盛り込んでいただきたい。総花的に言葉を並べるのは面白くない。北薩地域の取組方針が、鹿児島、始良伊佐などの人口が多い地域に埋もれてしまわないように何かキラリと光り、リードできるようなものを書けるよう提案したいと思う。

また、県のビジョンの教育文化の分野を見たが、どの地域の取組方針にもあてはまる表現になると思う。確かに、地域毎で変えてはならない分野が教育だと思う。また、県の掲げている「地域を愛し、世界に通用する人材育成」というフレーズは本当にその通りだと思うし、それに文句を言うつもりはない。しかし、高校教育に携わってきた観点で申し上げますと、世界に通用する優秀でいい子が育てば育つほど、彼ら・彼女らが世界に羽ばたいて行ってしまわないかということが懸念される。世界に通用するというのは決して羽ばたく必要はない。地元に残すかということをそろそろ親や先生が考えていかなければならない。そうしないと、地域がつぶれてしまう。特に、地域を愛するというのは子どもよりもまず親、そして、地元で働いている我々が考えなければならぬと思う。

第2章で地域のポテンシャルを書こうとしている。北薩地域は様々な特徴があるのだけれど、県の概要版を見てみると取り上げられているのは鶴ぐらいで、北薩地域のポテンシャルが他の地域と比べて取り上げられていない。もっと県のレベルで北薩地域のことを教え、県のレベルであげられなかった固有名詞をもっとあげるようにしていただきたい。

また、「地域を愛し」という部分はいいが、「世界に通用するような人材育

成」という表現には疑問を感じる。

学校教育は、国や県が示した指導要領でやっていくのが実態だが、北薩には先進的な動きをしている学校がたくさんある。しかし、それが外に知られていない。例えば、小学校での英語が必修化されるが、その中で薩摩川内市では何年も前から大学とタイアップして英語の先進的な授業方法を開発しており、県内の先生達に来てそのシステムを習おうとしている。あるいは、義務教育学校の開校も他地域に先駆けて出水や東郷で始まっている。これももっとPRしていい。また、社会教育の面ではさつま町は家庭の日の発祥の地であり、親子20分間読書を全国に広めたきっかけの町としても知られている。このようなポテンシャルをもっと活かしていけたらいい。

スポーツでは県では「する・見る・支える」という言葉を使っている。20年前は見るスポーツという言葉に抵抗があったが、いまではもう見ることも立派なスポーツである。これは文化も同じで、「継承する・見る・支える」ことが重要。特に支えると言う部分が大切。特に歴史遺跡の部分はストーリーが必要。ストーリーを作り観光と連動するような何かをいれてほしい。

【竹原委員】

日頃から子どもたちと接していると人口減少、出生率低下が身にしみる。若者の定着がないと更に少なくなっていくと考えられる。20代の職員に薩摩川内市について聞いたところ、遊ぶところがないなどと返ってきた。一方で、子育ての面ではどうかと聞くと、医療も進んでおり、無償化なども進んでいるため子育ての面では薩摩川内市は非常にいいと思うということを言われたのでほっとした。

全国の会議などに出席した際に、薩摩川内市です。と言うと、どんなところか聞かれるが「原発がある」ということしか言えない自分が恥ずかしかった。自分の地域を愛する、自分の地域のことを知ってもらう。それが小学校・中学校になっても、少しの時間でいいので自分の地域のことを知る、自分の地域に何があるかを知る、郷土を愛する人を作る、ためにそういう教育があってもいいのではないかと思う。住んでる私たちが誇りを持つ郷土を愛する気持ちが必要、それを子どもたちに伝え、一回出たとしても、10年後20年後郷土に帰りたいという気持ちを育てて行くことが出来たらと思う。

【北村委員】

長島町で子育てして思うところが、町の補助があって助かってはいるが、病院がなくて困る。子どもが病気になったときに預けるところがない。泣きなが

ら1時間近くかけて病院に行くこともある。保育士が不足している。保育園に入りたくても入れないお母さんの声をよく聞く。保育士も給料が低いことなどから、鹿児島市の方に流れていってしまったり、保育士をやめて他の仕事をする人が多い。

子育てはいろいろなゆとりがなければいけない。経済的なゆとり、時間的なゆとりを作っていくため、何かしていければと思う。

【来仙委員】

文言の提言をさせていただく。

別冊2の北薩地域の資料の57ページの真ん中主な取組内容のところ。

項目「健康づくりの推進」の「かかりつけの医療機関の普及定着を図る。」の表現は、「かかりつけの医療機関の普及定着の強化」という方が良い。

項目「安心安全な医療の提供」の「医師確保対策の充実」、これはとても大事なこと。先日働き方改革法案が成立したが、今後5年ほどかけて、医師の労働時間も減らされていくことになる。そうなれば、救急医療はどうなっていくのか。これは喫緊の課題となる。

項目「地域医療連携体制の構築」、連携体制はだいぶ整ってきた。ここは「地域医療構想の構築」になると思う。出水圏域で言えば、出水市立出水総合医療センターと、出水郡医師会広域医療センター、この二つの病院で地域の医療をきちんと提供すること。水俣に患者が流れている実情もあるが、県民の資産が熊本に吸い上げられるというのもどうかと思うので、地域医療構想を構築し、二つの病院で地域の医療を守っていくことが大切。

項目「災害時医療体制の確保、感染症対策のための医療供給体制の整備」、体制はかなり整備されてきたので、「災害時医療体制の確保、感染症対策のための医療供給体制の更なる推進」が良いと思う。

項目「高齢者の社会参加の場を促進し、地域の支え合い活動のためのネットワークづくりを促進」、ここの後半部は「地域包括ケアシステムづくりを促進」が良いと思う。

県のビジョン概要版10ページには「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」という表現がある。北薩地域でも「認知症になっても高齢者が安心して暮らせる地域づくり」という文言を盛り込んでもらいたい。

【今別府委員】

昔の総合計画というのは20年後を対象期間にしていたが、今は、10年先も見通せない時代、移り変わりの激しい時代である。2025年問題、2025年に団塊の

世代がすべて75歳以上の後期高齢者の仲間入りをする時代になる。そうなったときにそれぞれの分野でどういう風に状況が変わるのか。農業の就労者がどういう風になるのか、一人暮らし二人暮らしの高齢者がどう増えていくか。

2025年問題が地域に与える影響をどのように見るのかというのが大きな課題と思う。介護・福祉分野に携わっていると人材の確保がかなり厳しい状況である。

例えば甕島，人口減少もどんどん進んでいるし，店も少なくなっている。旧鹿島村は合併時人口600人ほどいたが今では400人を切っている。そのうち半数は社会福祉協議会に関係を持っている人たちである。店も少なく，食べることも非常に難しい。集落の消滅などが言われているが，2025年を迎え状況がどう変わっていくのか。年金の支給，医療，介護などがどう変わっていくのか懸念している。状況の分析は難しいが，変化に伴いどういう取組をしていくのかを示さなければならないと思う。

【跡上委員】

田舎に帰っていろいろなことがある。転ばん体操を国が推進してやっている。また，話し合いなどでサロンなどもやっているが，これらの集まりに男性の参加が極端に少ない。これらの場に参加しないと能力的にも衰えてくるのではないか。参加するのは女性ばかり。だから女性は長生きするのではないかと思う。

男性にたくさん参加してもらうように声をかけているが，なかなかうまくいかない。今回の取組方針にも，男性参加に関する何らかの取組を盛り込んでほしい。

行政の仕事をしたことはないからわからないが，自衛隊に所属していたときは，概ね10年間の長期計画，3～4年間の中期計画，単年度の実行計画という形で進めていた。今回の県の取組方針は，長期計画に該当するものだと思うが，実行計画については，市町村が定めることになるのか。

【岩元総務企画課長】

今回策定しようとする取組方針は，長期計画ではなく，中長期的な観点からみた方向性を示すものであり，県が策定したビジョンを受け，北薩地域の課題・今後の方向性について委員の皆様からご意見を伺い，北薩地域独自の取組方針を作りあげていこうというものである。実行計画は，県の個別の計画で読み込むこととしており，取組方針を受けた実行計画を作るものではない。

【跡上委員】

了解した。

話題は変わるが、地域で山田楽という踊りがあるが、幼い頃を思い出して元気が出るので、そういう伝統を各地域で掘り起こしていけたらいいと思う。地域に元気が出ると思う。

【永田委員】

高齢者の話を聞いてみると、地域のくるくるバス、今は1日2、3本しか運行していないが、もっと便数を増やしてくれればもっと乗れるし、気軽に外出できるのでという話があった。

元気な方はグラウンドゴルフなどの楽しみがある。しかし、寝たきり、デイサービスのお世話にはなるような方々の楽しみがない。北薩を高齢者が輝けるような、生き生きできる場所にしていければいい。

社会福祉協議会では有償ボランティアでいろいろされているが、シルバー人材センターのようなきっちりとした仕事でなく、公民館の草むしりでも良い、道路のゴミ拾いでも良い、誰でも気軽にできることを有償ボランティアで、県から少しお金を出して貰って、パンが1個買えるぐらいで良いので、小さい仕事をしてちょっとしたお金がもらえればいい。そんな小さな事でも高齢者は元気が出る。

【大野委員】

チーム阿久根華女という団体を立ち上げた。高校生から70代まで20名ほどの女性のメンバーを集め、阿久根駅を会場に、いわしビルの関係者、阿久根のこども園など、新しい取組をしている講師を呼び、阿久根の現状を、街を考えるとということで実施したもの。

街を盛り上げるために何をしようかを考え、子どもたちに音楽会をさせる、映画を上映する、工場見学など、新しい取組を始め、自分たちで楽しんでいる。

街から人がいなくなっていく、街は小さくなるが結局、人とのつながりを大切にするしかないと思う。PTAに入らない保護者が増えていると聞き、えーっと思うが、子育てはPTAでなく、地域が行う、地域の大人と一緒に子どもを育てるようにする。おしゃべりできる場を作り、行政に頼っていてもしょうがないから自分たちで何とかする。

地域に帰ってきたいという声もたくさんある。実際に移住している人もいる。そのための地域づくりというのが一番大切と思い、取り組んでいる。

何か困ったときに、すぐに相談できるような窓口があればいいと思う。

【松木委員】

親子メニュー推進協議会は今年で8年目になる。出水は鶴も有名だが養鶏が盛んなので、それと地元の食材を合わせて人口交流の増加を目指すということで、取り組んでいる。

鹿児島大学との交流や、地元の小学生との料理教室、ボランティア活動なども行っているが、飲食業を通じた観光交流にもつながっている。

他の地域の取組などを知って、交流をさせていただきたい。

【増田委員】

建設業の現在の状況だが、どこの業界とも同じく、少子高齢化の影響をまともにも受けている。自分の会社でも、あと2、3年で定年という人が多い。人手不足は危機的状況にある。そのため、中学高校への出前授業で建設業のPRをしているが効果があまりない。

災害発生時に初動で動くのが地元の建設業であるので、地域の安心づくりのために頑張っていきたい。

【南原委員】

農園を30年ほど経営しており、正規7名、パート20名ほど社員がいるが、60歳超えの人が多人数を占めており、やめる方が多くなると予想される。

新しい人を雇用したいが、なかなか地元で雇用できる人がいない。

仕事がたくさんある様で、ハローワークで仕事を探している人がいない。

求人を宮之城だけでなく薩摩川内にも出しているがなかなか雇用できない。高校生の募集にいても、農業はきついイメージがあるのか、来てくれない。

このままだと人がいないことで経営が成り立たなくなる。外国人研修生に頼らざるを得なくなるのではないかと心配している。外国人研修生を入れようとする場合、厚生年金などは地元のパートや社員を雇うのと同様の負担が発生するのに加え、住むところの提供や、幹旋会社・管理組合に支払う毎月の手数料（3万円程度）も発生してしまう。そのため、研修生も迎え入れたいが、費用の面で躊躇している状況。パートさんなどの雇用も必要なので、時給の見直しなどもしているがなかなか難しい。

県や農協で、外国人研修性の受け入れがしやすい体制をとれるようにしてほしい。余分な費用がかからずに、きちんと仕事をしてくれる研修性を派遣してもらえそうなシステムがあればいい。

さつま町は中学校が4校あるが、来年3月をもって宮之中学校に統合される。中学校になるのだが、子どもが部活、塾などの関係で、学校の近くに引っ

越していくため、一部の地域に人が集中し田舎が更に田舎になり、人も子どももいなくなる。小学校も廃校になるのではないか。都市部に人が集中することで、田舎の高齢者が買い物をするのにも病院に行くのにも困ってしまいよりいっそう住みにくくなってしまっているのではないか。年寄りが困らない住みやすい町になればいい。

農業委員になったことで地域の田んぼに目が行くようになり、水田が埋まっているところ、苗が植えてあるところは生きている農地、そういうところがあると人も生き返る。高齢で田畑を作れない場所が増えてくる。農協やさつま町、県などであいている田畑を代わりに作るような、公務員にそういう部署があれば良いのではないかと思う。夢であるが。

【京田委員】

農業の現状について、出水地区・長島町はジャガイモの生産地であるが、売上額は去年は20億円であったが今年は14億円と、6億円も収益が少なかった。

10kgの一箱たったの150円なのに、市場にひきとってもらえない。そうなるとうるせざるを得ない。北薩の人が1kgずつ買ってくれたらいいのにといいながら、やはり、地産地消の観点、作ればなんとか捌ける、地元で消費してお金に変えていく形にしていかないと続かないと思う。

集落営農、人が少なくなっていく中、農作業を誰かが行わなければならないが、一つの農家にしわ寄せが来ている。作業時間がとれないので、例えば6月には田植えが終わるべきところ、7月までかかっている。

【岩下委員】

若者が定着しないということが課題である。

3年以内の離職率が全国で3割鹿児島は5割、では、実際に若者の定着のためにどのような手を打ったかと考えたときに、たいした手を打っていないというのが現状である。森林組合が何をしているか想像つかないと思う。木を切るぐらいのイメージなのではないか。見せることをしていないのではないか、今月から高校生の就職の解禁になるが、パンフレット、ホームページをつくっていないのに、人を集めると口だけ言っていると反省しているところ。

また、就業してから2～3年ぐらいしてから、働きがいはこちらから見つけさせてあげることが大切である。やりがいを継続させてあげることが出来ないのではないか。自分たちは広域的に役に立っているのだと、周囲に認識させてあげることが大切ではないかと思う。

これらの取組についてはPDCAサイクルの考えに基づき、きちんと検証し、

繰り返し行って構築していくものだと思う。

こういった形で北薩地域の取組方針をつくっていけば良いのではないか。

【山下委員】

漁協では、現状維持はありえないということを入りに、常に新しい事を取り組んでいる。長島町では漁協へは若い人の就業も多く、その影響か、人口も極端に減っているような状態ではない。

ただ、人手不足は常にあるため、外国人研修生を入れることも考えてはいるが、先ほどの話でもあったが、管理組合に支払う費用が高く、誰でも入れられない。人手不足への対応について、このビジョンの中にも入れられたらと思う。

後継者が増えない現状だが、後継者が育ち、儲かる仕組みをどうやって作っていくか。北薩地域の独自性を出すのであれば、全ての産業に共通の課題である課題、例えば人手不足・後継者不足の問題に対する取組の方向性などを盛り込むとか、6次産業化への取組などを盛り込んでいくのが良い。

【奈良迫委員】

観光の方向性と北薩地域振興局でなにをしていけばよいか。今、日本全国観光に力をいれている。地方創生交付金、DMOなどで国がお金を出してくれる。「稼ぐ観光」に力を入れている。

今の観光は個人旅行がほとんど。鹿児島に来る観光客の75%が個人客。今は温泉だけでは人は呼べない、今の観光は、地域の生活文化をどう組み合わせしていくかが大事。

1人暮らし2人暮らしが全人口の6割を超えており、観光は少人数のグループが主。管内には3市2町あるので、それぞれの光る尖ったキラークンテンツ、例えば人や祭りなど、ストーリー性をつけていかに売り込んでいくか、情報発信をいかにやっていくかが、振興局レベルで大切なこと。今お客はドライブインには寄らない。道の駅や古民家、農家などに寄る。それらをどう観光に活かすかが問われている。地域の総力戦の時代。何も無いのを嘆くのではなく、田舎の良さを活かす。そういうものを売っていく時代である。

外国人は色々問題があるが、就業問題を含め、外国人に対応せざるを得ない。外国語表記なども増やす必要がある。

取組方針には、観光について「あるものを活かす」という視点を盛り込んでいただきたい。また、都会と田舎の「共生」ということも考えていただきたい。

－ 以上 －